

早池峰

令和7年10月22日（水）第24号

共に生きることの意味を学ぶ・その1

～4年生が遠野コロニーを訪問してきました～

10月16日(木)、4年生の子どもたちが「障害者支援施設・遠野コロニー」(社会福祉法人睦会運営)を訪問しました。遠野コロニーさんとの交流の歴史は古く、本校が県社会福祉協議会指定校となったことをきっかけに昭和54年に始まり、以後年2回の交流会を中心としながら続けられ、平成30年にはその活動が認められ「いわてユネスコ活動奨励賞」を受賞。翌年に行われた遠野コロニー開所40周年記念式典には3年生以上の児童が参加していましたが、コロナ禍の影響を受け令和元年以降は本校児童から手紙を送るのみとなり、交流活動は実質停止していました。

しかし、遠野コロニーさんとの交流は障がいをもっている方々の活動の様子を直接学んだり、だれもが公平に幸せに生きるために大切なことを学んだりするととても貴重な機会です。そこで、このまま交流をなくすのではなく、復活させたいと思い、遠野コロニーさんと交流の内容などを相談しながら、今年度久しぶりに訪問を実現することができました。

今回の訪問では、最初に施設長さんから「施設の目的や内容」「障がいとはどのようなことか」「共生社会とはどのような社会か」の大きく分けて3つの話をさせていただきました。施設長さんのお話の概要は以下の通りです。

①遠野コロニーとは

…障がいをもっている方の生活と仕事のお手伝いをする場所

- ・施設に宿泊まりしている方や利用している方の手助けをする（トイレ・風呂・食事など）
- ・仕事をするときに必要な手助けをする（主な仕事…印刷、クリーニング、おしぼり貸出に伴う作業など）
- ・一時的に見守りが必要な方の手助けをする（トイレ・食事・作品づくりなど）

②「障がい」とは

…心や体の働きに不自由なところがあり、その不自由さや、使いにくい施設・道具のために生活や仕事上困ってしまうこと。

- ・主に「身体障がい」「知的障がい」「精神障がい」の3つに分けられる

③「共生社会」とは

…障がいをもっている人も、お年寄りも、弱い立場にある人も、小学生のみんなも、誰でも同じに幸せに暮らしていける社会

※みんな同じ取り分（平等）ではなく、必要な人に必要なだけ必要なものがいく（公平）であること

例えば…300円を、②生活にとっても困っている人、④少しだけ生活に困っている人、⑤生活に困っていない人に「平等」に分けるには1人100円ずつになる。でも、「公平」の考え方だと、⑤の人が②の人に100円を分けると、みんな生活に困らなくなる。ということ。

「障がいをもっていることは不自由だけど、不幸なことではない」という言葉があります。例えば、私校長の井藤も眼鏡をかけていますが、眼鏡なしでは車の運転も仕事もできませんので、これも障がいの1つと言えます。「障がい者」という言葉は、差別をしているという印象をもつことが昔は多かったかも知れませんが、人は誰にでも得意なことも苦手なこともあります。ましてや「障がいがない人は優れていて、障がいがある人は劣っている」などという考え方は今では間違いであることは言うまでもないことです。

遠野コロニーの施設長さんから「平等と公平」の違いをわかりやすく話していただき、4年生の子どもたちもしっかり理解できたようです。本年度、本校では他にも全校児童でのパラアスリートとの交流や、5・6年児童による認知症サポーター養成講座を行っていますし、来月には1・2年生によるふれあいホームでの交流も予定されています。こういった機会を通して子どもたちには「共に生きること」の意味を学んでほしいと思っています。

※次号では、遠野コロニーでの学習・交流の様子を詳しくお伝えします。

明日はいよいよ音楽祭本番です！

過日ご案内の通り、明日10月23日（木）遠野市民センターにおいて遠野市小学校音楽祭が開催されます。本校は全校児童が出演します。ぜひ会場に足をお運びいただき、大きな拍手をいただければと思います。なお、本校の出演は9時44分頃の予定ですが、時刻が前後する可能性もありますので、余裕をもっておいください。その他注意事項等は10/17のさくら連絡網をご確認ください。特に駐車場についてご留意くださるようお願いいたします。